

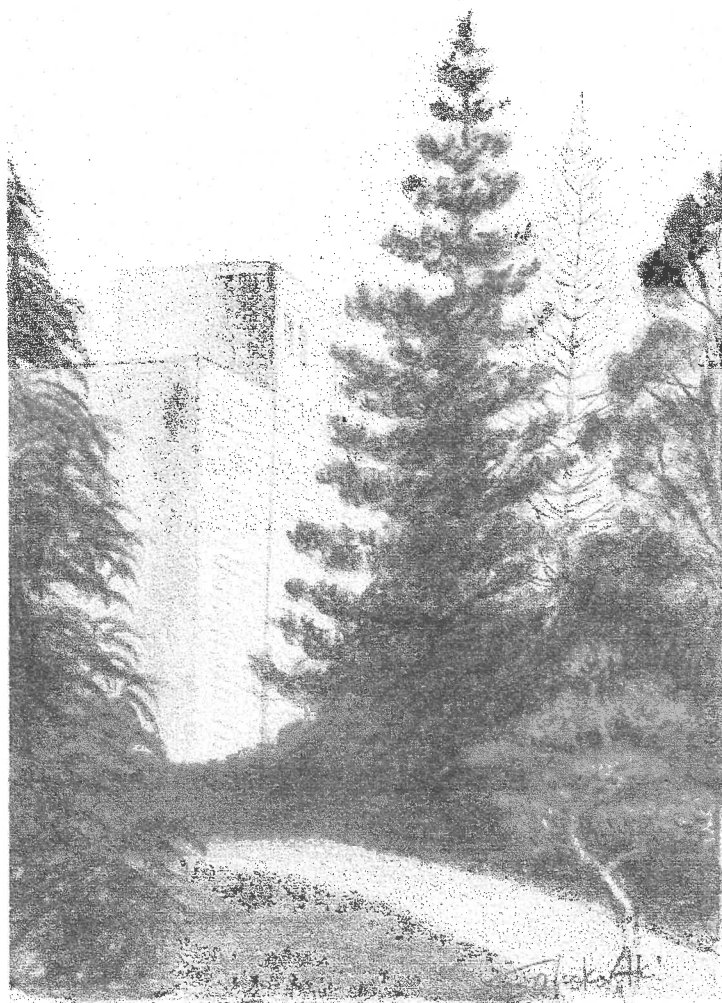
身近な自然環境・歴史的文化的環境・生活環境を保全・回復・創成する

NPO 法人すいた市民環境会議

2007年7月 第52号

吹田の郷

発行/NPO 法人すいた市民環境会議 会長/小田忠文 ホームページ<http://www3.big.or.jp/~sskk/sskk.htm> 設立/1997年3月15日
事務局/〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3丁目8-28-106 中村小夜子 TEL/090-8375-0647 FAX/06-6386-9491 編集/会報委員会
年会費/正会員(個人・団体)1,000円、正会員(法人)10,000円、購読会員1,000円、賛助会員10,000円 郵便振込口座番号/00980-3-28845



目次

1. 表紙
2. 会長コラム 表紙の大木説明
3. 総会報告・新役員紹介
4. ナショナルトラスト
5. 同上 (つづき)
6. みどりのカーテン ほか
7. メタセコイアの不思議
8. 千里南公園の文化を楽しむ
9. 散策会報告「旧山田村コース」
10. くらしはやさしく自然体
11. ホタルを追っかけ10年
12. すいた環境教育フェア
13. こんなイベントもありました
14. 行事案内・寄付お礼・編集後記

春夏秋冬

会長 小田忠文

すいた市民環境会議（以下、当会）が発足から11年目に入った今年はNPO法人になって8回目の総会を迎えました。今回、総会資料とともにお送りしたアンケートの返信では活動に協力申し出をいただいたり、提案をいただいたり、叱咤激励も受け感謝しています。▲総会では議案への質問と提案で、励まされ、嬉しかったことがあります。今年度は大木調査とみどりのカーテン普及、市民共同発電所の3事業を特別会計として計上したが、それらは助成金を獲得できねば事業を縮小する予定です。▲しかし、「基本金というものがあるのだから、今この総会の場で不足が出たときに使う、と了解を取りなさい」という提案をいただいた。まことに嬉しい提案でした。▲今後の理事会で基本金使用の考え方を検討し、次回の総会に提案できるよう努力したい。また、事業はなるべく多くの方々に参加していただきながら、あらゆる助成金獲得に努力していく所存です。▲ところで、吹田市には市民活動団体や、市民活動を目指す団体に補助金を出す制度がある。その財源は一般会計から担当部署が捻出しているのが実情だ。東欧のハンガリーでは1996年から「1パーセント法」という法律が施行されています。「個人所得税の

1%を指定した団体へ寄附できる」という制度です。▲日本でも千葉県市川市は2005年に「市川市納税者が選択する市民活動団体への支援に関する条例」を作っています。それはボランティア団体やNPOなどの中から支援したい団体を選び、個人市民税額の1%を支援（寄付）できる制度です。▲市外から通勤通学していて住民税を払っていない人もこの制度に参加できる仕組みも考えられています。2006年度には約1200万円が市民活動団体に配分されたそうです。この条例は今年度からさらにバージョンアップされ、支援したい団体が三つまで指定できるようになりました。吹田市で同様の条例が制定されることを望みます。▲さて、当会は今年1月、吹田市に「旧国鉄吹田操車場跡地を森に」と提案しましたが、その手法の「ナショナルトラストとは何ぞ」との問いに答え、総会のあとで説明討論会をおこないました。総会出席者全員が残ってくださり感激した。違う意見もあるが、やはり「操車場跡地はみどりの森にしたい」と考えている人が当会の会員には多いと実感しました。▲「すぐにもそのための寄附を集め、市に実績をもって提言するのが力になる」とのご意見もいただいた。非常に力強い後押しである。これからも会員の皆様方の一層の応援をお願いします。

＜表紙の大木＞

吹田の大木シリーズ（4）

アサヒビール迎賓館前のセンペルセコイア

「センペルセコイア」はセコイアメスギ、又は単にセコイアとも呼ばれ、原産地のアメリカ大陸では高さ100m、直径3～8m（幹周10m～25m）もの大木となるスギ科の植物である。近縁のメタセコイア、ラクウショウは落葉樹であるのに対し、センペルセコイアは常緑樹である。

吹田市内では古江台中学校、青山台中学校などに植栽されているが、大木ラインである幹周2mを越える木はアサヒビール迎賓館前、佐竹台で道路脇の緑地、万博公園自然文化園に各1本の計3本である。アサヒビールのセンペルセコイアは正門前的大通りからメタセコイアと並んで見られる高木で、97年の調査で幹周り205cmあり、大木として登録されていた。今回の調査では248cmと、この10年間で幹周りが41cm増加し、高さも27.5→29mと高くなっており、原産地の大木ぶりを彷彿とさせる風貌を持ちつつある。

（表紙画：安芸早穂子 文：平 軍二）

第8回 通常総会報告

会報委員会 古谷啓伸 松岡要三

6月17日の日曜日、吹田市民会館で総会が開催されました。会員35名が出席、下記の式次第に従って審議が進められ、1号から5号までの議案が承認されました。議案審議終了後、理事会が開催され、理事の互選により会長・副会長・事務局長が決まりました。

日時：2007年6月17日(日)午後2時～4時
場所：吹田市民会館

第1部 議案審議

- 1号議案 2006年度事業報告
- 2号議案 2006年度収支報告
- 3号議案 2007年度事業計画案
- 4号議案 2007年度予算案
- 5号議案 理事・監事選出

(休憩 選任された理事による理事会で役職決定)

第2部 提言と討論会

テーマ 吹田操車場跡地を21世紀の森に
～ナショナルトラスト方式について～
講師 小田忠文

5号議案で承認された理事・監事と役職は下記の通りです。

理事：小田忠文（会長）

喜田久美子（副会長）

高畠耕一郎（副会長）

中村小夜子（事務局長）

安達直樹 小田信子 具志堅葉子

塩田敏治 田中隆三 平 軍二

古谷啓伸 松岡要三

監事：香月利明 彦坂利久

前理事の田中一子、山本富雄は退任されました。永い間ご苦労さまでした。

尚、今年度の顧問は下記の方です。（理事会で承認）

加藤俊二 武田義明 三輪信哉

山田國廣 片寄俊秀

第2部の提言では、小田会長よりパワーポイントを利用して、鎌倉や知床、天神崎の事例や吹田で提案内容の説明があり、また京都から日本ナショナルトラスト協会の笠岡英次さん（左の写真）が駆けつけ飛び入りで天神崎での市民の活動を披露していただき、有意義な時間を持ちました。（トラストについては4～5頁参照）



新しい理事・監事・顧問を紹介します。宜しくお願いします

理事 具志堅 葉子（川岸町在住）

学校でビオトープ活用の授業やクラブ支援のボランティアをしています。「自然との共生を現代で実現するには？」をテーマに取り組んでいます。ご指導ください。

理事 安達 直樹（山田西在住）

大木調査に関わっています。「すいた環境学習協会（SELF）」にも加入。入会后まだ1年余ですが、一步一步前進したいと思いますので宜しくお願いします。

監事 彦坂 利久（津雲台在住）

「あろく吹田」の制作に関わりました。まちづくり・公園再生に取り組んでいます。環境会議という名前にふさわしい活動が進むように少しでも貢献出来たらと考えます。

監事 香月 利明（山田西在住）

約7年前に当会入会。「吹田自然観察会」、「まちなか水族館」等自然系団体にも所属。初のスタッフ入りです。何かお役に立ちたいと思っています

顧問 片寄 俊秀

～ 先生の著書はお勧めです。読んでみてください ～

まちづくりプランナー、大阪人間科学大学教授、ほんまちラボまちづくり道場・道場主、花鳥風月のまちづくり研究所主宰。最近の著書に「まちづくり道場へ ようこそ」「商店街は学びのキャンパス」「いいまちづくりが防災の基本」がある。環境芸術家・町並み旅絵師を自称されています。

ナショナル・トラスト

会長 小田忠文

今年1月、すいた市民環境会議は吹田操車場跡地について跡地の大半を森にする「吹田100年の森構想」を提言しました(吹田の郷 07年3月50号参照)。そして、その用地取得に当たってナショナルトラスト方式を提言しました。

その後数人の会員から「ナショナルトラスト方式とは？」とのご質問を頂きましたので、紙面を借りて「ナショナル・トラスト(以下NTと省略)」を語ってみます。



(Google map より)

紫金山公園以南にまとまった“みどり”がほしいです。吹操跡地は、その絶好の位置にあります。

今から112年前の1895年にイギリスで3人の市民が「国民のために土地を共有する団体」として創設し、「1人の1万ポンドより、1万人の1ポンド」をモットーに資金を集め、美しい海岸や歴史的遺産などを買い取って保存する市民運動を始めました。市民が自分たちのお金で身近な自然や歴史的な環境を買い取って守ることで次の世代に残すという運動です。

ナショナルは「国の」ではなく「国民の」という意味で、国民がお金を出して買った土地をトラスト(信託)するという意味です。

「買い取ってしまったら運動は終わり」ではありません。むしろそれから、活動の始まりとも言えます。日常の清掃や草刈りからその資金の調達まで、必要な活動は数限りなくあります。そうした活動を楽しみながらできることが、NT運動のいいところです。

日本では1964年に鎌倉市の鶴岡八幡宮の裏山が宅地開発されそうになったとき、市民と市が「(財)鎌倉風致保存会」を設立し、資金を出しあってこの土地の一部を買い取りました。その後1977年北海道斜里町が「しれとこで夢を買いませんか」と呼びかけた“知床100平方メートル運動”でNT運動が一躍全国に知れわたるようになりました。

全国では現在50余りの団体がNT運動をしています。次頁にその抜粋を掲げていますように、その団体は財団法人、NPO法人、任意団体といろいろです。その中の代表的な二ヶ所の運動を紹介します。

1) しれとこ100平方メートル運動

知床国立公園の岩尾別・幌別(おべつ)地区は、大正3年に開拓が始まって以来、戦前・戦後を通して国の開拓計画によって、福島県や宮城県などからの入植者が開墾を試みた場所でした。

しかし、この地区は道路はもちろんのこと、水利も悪く、台地は転石に覆われ、入植地として最悪の条件だったのです。開拓者たちは、開墾の厳しさと生活の不便さ、さらにはバツの大発生被害などによって次々と離農し、昭和41年までに全ての開拓者がこの地を去りました。

この間、昭和39年に知床は、原始的な自然の価値が評価され全国で22番目の国立公園に指定されました。その結果、秘境知床として一躍全国の注目を集め、特に昭和46年の「知床旅情」の大ヒットは、空前の知床ブームを巻き起こし、国立公園利用者の急激な増加を招きま

した。さらにこの頃「日本列島改造論」による土地投機ブームは知床にも押し寄せ、開拓跡地が不動産業者によって買収されはじめ、その面積は100haにものぼりました。

国立公園内でとはいえ、一度不動産業者等に渡った土地は乱開発が予想されます。そこで、開拓跡地を保全し、原生林の再生を夢んでいた当時の町長がイギリスのNT運動をヒントにして1977年2月に「しれとこ100平方メートル運動」のスタートを発表しました。

土地の買い取りや植樹費用等にあたる金額8000円を一口として、「しれとこで夢を買いませんか」のキャッチフレーズで寄付を募りました。この運動は、自然保護に関心を持つ全国の人々から賛同を得られ、市民が自発的に関東支部、関西支部を結成し運動を広めました。また運動を支援する報道にも後押しされて、各地から寄付金が寄せられました。

運動開始から20年の1997年に目標の買取りが終わり、現在は「しれとこ100㎡運動の森・トラスト」と改名して森の再生のための活動と募金が行われています。2007年運動の歴史は30年になりました。

2) 天神崎の自然を大切にする会

和歌山県田辺市にある天神崎という磯は珊瑚や熱帯魚も見られる豊かな磯です。後背地の海岸林は腐葉土層が磯に栄養素を補給するとともに、風や雨などによる土砂の海への流入を防ぐ働きをしているのです。その後背地の海岸林が宅地開発されそうになった1974年、(まだNT運動という言葉も知られていなかった当時、)地元の有志が(今で言う)NT方式で全国から募金し、その後背地の森を少しずつ取得しつづけています。この団体は当初任意団体で発足しましたが、昭和61(1986)年に財団法人「天神崎の自然を大切にする会」となり、活動を続けています。しかし活動を始めて33年経過した今日までに取得した土地は目標の約半分です。ありません。(まだまだ目標には到達していませんので皆様のご協力をお願いします)

このように「天神崎の自然を大切にする会」の活動は関係者の言語に絶する犠牲的献身やマスコミの支援にもかかわらず、長い間重荷を背負った活動が続いています。これに対し知床の運動は行政直営のため、条例で「寄付金は土地買取りと植樹に使う」と明記されていますので、寄付する人に安心感がありました。そして関東や関西をはじめ、多くの市民が率先して運動の輪を広げていったという経緯があります。

日本のナショナル・トラスト運動(抜粋)

- ・しれとこ100㎡運動の森・トラスト (北海道・斜里町)
- ・(財)前田一步園財団(北海道・阿寒町)
- ・NPO法人 霧多布湿原トラスト (北海道・浜中町)
- ・キナシベツ湿原を愛する会(北海道・音別町)
- ・NPO法人 NT・チコロナイ(北海道・平取町)
- ・はちのへ小さな浜の会(青森県)
- ・NPO法人 蔵王のブナと水を守る会(宮城県)
- ・NPO法人 川越蔵の会(埼玉県)
- ・(財)トトロのふるさと財団ホーム(埼玉県)
- ・(財)日本ナショナルトラスト(東京都)
- ・(財)世田谷トラストまちづくり(東京都)
- ・(財)鎌倉風致保存会(神奈川県)
- ・小網代の森を守る会(神奈川県)
- ・(財)妻籠を愛する会(長野県)
- ・軽井沢ナショナルトラスト(長野県)
- ・(財)柿田川みどりのトラスト(静岡県)
- ・NPO法人 ウェットランド中池見(福井県)
- ・山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会(滋賀県)
- ・NPO法人 赤目の里山を育てる会(三重県)
- ・NPO法人 阿漕浦友の会(三重県)
- ・しれとこの森・トラスト関西(京都府)
- ・(財)天神崎の自然を大切にする会(和歌山県)
- ・(財)岡山県郷土文化財団(岡山県)
- ・(社)高知県生態系保護協会(高知県)
- ・(社)トンボと自然を考える会(高知県)
- ・臼杵デザイン会議(大分県)
- ・NPO法人 エコシステム(熊本県)
- ・やんばる自然保護の会(沖縄県)

すいた市民環境会議の提案する「NT方式」とは北海道斜里町の「しれとこ100平方メートル運動」が参考になると考えています。つまり、行政は条例で寄付金の使途を規定することで寄付者の安心を担保します。そしてこの運動は「この土地が大切だ」と思う市民がそのネットワークで広めていくという方式なのです。趣旨に賛同してくださる方なら国の内外を問わない運動に発展できるでしょう。

そして、21世紀前半は市民が植樹し、木を育て、21世紀後半以後には私たちの子孫がこの森を管理していく運動なのです。

「みどりのカーテン講座」開催しました。

5月27日(日)10時～地球温暖化とヒートアイランド現象緩和のために市民ができる取組みとして「アジェンダ21すいた」ほか他団体との協働で「みどりのカーテン」講座を開催しました。参加者33人で、「地球温暖化とヒートアイランド現象」(環境会議担当)や「佐竹台小の設置例」(環境学習協会担当)の説明の後、グリーンスタジオ寺西さんからゴーヤの植え方、育て方を聞きました。午後からは、やすらぎ苑の集会所に、ヘチマやヒョウタンなどを植えてみました。この夏の成長が楽しみです。

グリーンスタジオの寺西さん廣瀬さんから、植え方を教わりました。マンションベランダでの植え方などお役立ち情報も！



やすらぎ苑集会所で実際に植えてみました。「エコプレス」の関大ゼミ生も取材がてら参加です。



「涼しく過ごしたい」「みどりを育てるのは魅力」「ゴーヤも楽しみ!」「講座に出てやってみようという気になりました」と参加者の皆さん。



アジェンダ事務局担当の市職員の皆さん。「やったね!」「お疲れ〜!」



今年も始まる「暮らしのCO₂ダイエット」

IPCC 第4次報告で温暖化が加速していることが確認されました。
「あしたのエコでは遅い」というコピーがありますね。世界が動き始めています。あなたはどんなアクションを起こしますか？ あなたのアクションの基礎となるもの、それはあなたの自身のライフスタイルです。この「暮らしのCO₂ダイエット」はライフスタイルをチェックし、エネルギー使用量を数値で把握する環境家計簿吹田版です。どなたでも簡単に楽しく取り組めます。継続は力〜昨年取り組んだ方は引き続きやってみましょう。初めての方はぜひチャレンジを！
★期間は8月～12月★日々エコな取組みを実行します★電気・ガスの「使用量のお知らせ」から転記します★きっと使用量が減っているはず★料金も減っているはず★無理はしないで無駄をなくす！★気軽に気長に！★これもアジェンダ21エネルギー部会と協働で取り組みます。説明会は7月31日(火)14:00～15:30 男女共同参画センターで開催予定！

同封のチラシで、お申し込みください！

旧山田村コース

阪急山田駅～王子池～紫雲寺～安養寺～圓照寺～万博公園

2007.6.9 内本町 塚本 勝

ショッピングセンターの開設やマンションが林立して阪急山田駅前が大きく変わっているのを目にして今日の散策会がスタート。総勢9名、駅前を9時半出発。

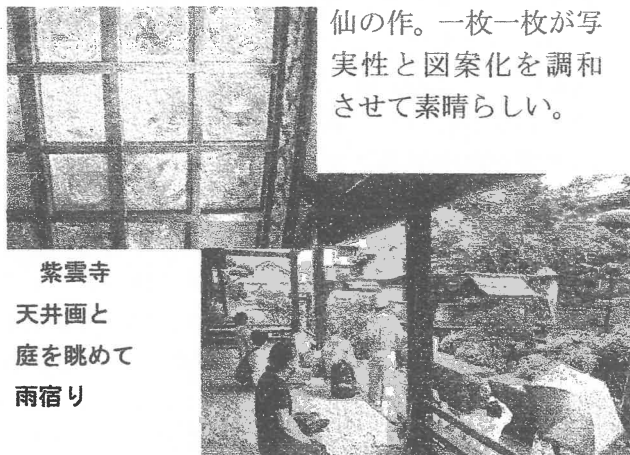
歩きながら山田駅からまちの変わる様子を目で確かめつつ、間もなく王子池に到着。もとは水田用のため池でした。『山田の田は月夜で焼ける』、これほど水不足に苦しんだ農民の姿を表現した言葉を知らないが、今では昔の話だ。今はノンビリと泳ぎまわる鳥たちや水草で平和な別世界のようにです。



王子池 水鳥も観察できる

三つ辻道標から下ってくる古い山田の旧道に入る。『吹田千軒、山田千軒』といわれた旧山田村は狭く曲がりくねった道が山田川に小さな橋を渡して続く。瓦井戸や石仏群を見て歩く。山田の民家は立派な門構えと塀と蔵に囲まれているが、変化の波は容赦なく押し寄せている。江戸時代からの漢方医の上島邸は分譲住宅に、竹中邸も門のみ残してマンションになってしまった。

紫雲寺に着く頃から雨となり、雷鳴さえも混じります。この寺の有名な天井画についてご住職の奥様から丁寧な説明を聞きました。天井に描かれた絵は大阪府文化財の『鳥獣画』(82面)で森祖仙の作。一枚一枚が写実性と図案化を調和させて素晴らしい。



紫雲寺
天井画と
庭を眺めて
雨宿り

雨で長居したので安養寺へ急ぎます。山田小学校はこの寺で開校されたそうです。春夏秋冬、四季折々の彩りが美しく山田の「花の寺」というところでしょうか。



安養寺 境内

山田にはお寺が多い。八つあり、六つが真宗、最後に訪れた圓照寺は真言宗だ。応仁の兵火で焼かれるまでは、千里北公園の蓮間池辺りにもおよぶ広大な寺院と聞きました。この寺はまた山田が農民の村だった頃、夜が明けるまで権六という盆踊りを踊る若い衆で賑わったそうです。この辺りは在りし日の山田の様子を偲べます。



圓照寺 境内

「あるック吹田」のコースを外れて今日は万博へ向かいました。昔の山田らしい竹やぶの残る小道を経て万博外周道路へ到着。左手の小山の肌に『アズキ火山灰層群』の表示板があり、最後の説明を受けました。昼食会(「あるック散策会」は最近これが恒例だそうです)の後、雨上がりの日本庭園の新緑と菖蒲園の花の美しさも格別でした。



くらしはやさしく 自然体

10周年おめでとうございます
皆様の活動にエールを送ります

秋山 こずえ (元理事・初代編集長)

日差しの強さに目まいをおこしそうな夏が又やってきた。先日、緑に囲まれた千里南公園円形広場の一角に工事の囲いができた。2週間後囲いがはずされた。円形広場出入口とでもいうのか3~4メートルの長さのコンクリートで固められた道ができています。何の為なのかよく分らない。

地球温暖化、温室ガスなどの言葉が飛び交う中、こうも簡単に土を覆うコンクリートをはってしまうのか。

私は何年か前に、吹田市立博物館一般駐車場の暑さにウンザリして、コンクリートを剥がし、緑陰を作る提案を「市長への手紙」で出したことがある。市長からは、大変丁寧な返事をいただき、実現する日が来るものと信じている。

一昨年、マンションから一戸建てに引っ越した。まず考えたのが駐車場をどうするかであった。コンクリートで土を覆うのが嫌な私は、草がはびこるものにした。この草地駐車場は、トカゲ、バッタなどの生息の場になりつつある。私は大変満足している。

また、太陽光発電も始めた。モニターを見るたび節電が楽しくなった。このソーラ発電はどこの家にもお勧めする。そのための補助金制度を、もう一度考えて欲しいと願う。

日々の生活の中での環境問題は、取り組むというほどの意識は無いが、気持ち良く暮すことが、自然体で環境配慮に繋がっているように思える。今、水道料金対策のために雨水利用を真剣に考えている。今朝、物置にヤモリが居るのを発見。我が家を棲家とする生き物が増えるのが、ちょっと嬉しい。



我が家の草地の駐車場

ホタルを追って10年

生きもの委員会 塩田 俊治

ナンダ!「幽霊ボタル」じゃないか、少々ガツカリしたのが、10年前、吹田で初めてヒメボタルにお目に掛かった時のことだった。通称、千里山田緑地(吹田千里緑地第4区)に「ホタルが居るので観察しないか」と誘われて、行ってみたら期待はずれだったことを思い出す。

幼少の頃、ホタルと言えばゲンジボタルやヘイケボタルであり「幽霊ボタル」と呼んでいたヒメボタルは、所詮、遊び相手ではなかった。

郷里の能勢では、7月初旬の頃に雑木林などで時々見かけるホタルを「幽霊ボタル」と呼んでいた。ゲンジボタルなどが盛んに飛ぶのは、田植えの準備が始まる頃だった。そのホタルのシーズン

も終わった頃に、遅れて出てきて、お盆の前に飛ぶホタルを、そう呼んだのかも知れない。

ホタルはカブトムシなどと同じ甲虫の仲間、世界中に約2000種、日本には約45種が生息していると言われ、しかも、その殆どの種が陸生で、幼虫期を水中で過ごす水生の種は10種にも満たないと言う。

1960年代までは、吹田市に雑木林や竹林が点在し、田畑が広がる緑の豊かな千里丘陵があり、雑木林の腐葉土の中では、陸貝でカタツムリの仲間のオカチョウジガイを餌にヒメボタルの幼虫が育ち、田んぼの水の中や小川の流れでは、カワニナやヒメタニシなどの淡水貝を餌にゲンジボタルや

ヘイケボタルの幼虫が育って、ホタルの乱舞が初夏の風物詩となっていたと思う。

1970年代になって始まった、千里ニュータウンの開発は、田んぼを家なみに変え、小川は暗渠(あんきょ)となって、川床や護岸がコンクリートの水路になり、淡水貝は住めなくなり、幼虫の餌をなくしたゲンジボタルやヘイケボタルは吹田市内から姿を消した。

雑木林や竹林は分断されて、市街地の中に緑地や公園として残った。その中の一つが千里山田緑地で多くのヒメボタルが生息している。ヒメボタルのメスは羽根が退化して、急激な環境の変化が起きても飛んで逃げる事ができないと考えられ、絶滅が危惧されて、大阪府は準絶滅危惧種に指定している。

ホタルの光は繁殖のため、発光してオスとメスが互いに誘引すると言われるが、飛ぶ事の出来ないメスは、草や笹などに登り、飛んでいるオスに光が見えるように腹部をネジって発光し、オスを誘引している。

メスは交尾を終えると半日程で産卵して、間もなく死ぬ。産卵された50個程度の卵は2~3週間で2ミリ程度の幼虫になり、1~2年で成虫となることが飼育によって確認できている。

千里山田緑地では、5月中旬から6月初旬にかけて、ストロボ光を発する。ナンダ「幽霊ボタル」じゃないか、とガッカリしておきながら、毎年「恋に焦がれて、鳴かぬ蝉よりも、鳴かぬホタルは身を焦がす」と、妖しく光るホタル火に魅せられて、「観察しないか」と誘ってくれた人達と共に、調査・観察を一日も欠かすことなく続けてきた。

ゲンジボタルやヘイケボタルが姿を消した今、絶滅が危惧されているヒメボタルを守り次世代に伝えるためには、「幼虫の生活環境である雑木林の腐葉土の中は？」更に、「そこに生きる他の生

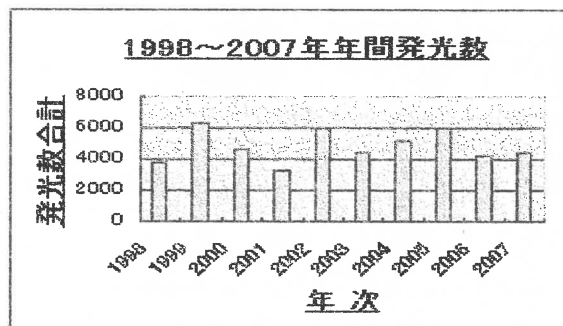


多様な生きものの生息を可能にするため
竹を抑制し、雑木林の復活に取り組む

物たちは？」また、「緑地の気温、湿度などの気象条件は？」と、際限なく調査、観察の対象は広がっていく。

近畿、中部、関東など各地でヒメボタルを守ろうとしている仲間、研究している学者との繋がりで、サミットやシンポジウムが毎年開かれ、情報と意見交換が行われている。

1998年~2007年発光数の経緯		
年	発光数	最高発光月日及び発光数
1998	3777	5月14日: 620
1999	6338	5月29日: 743
2000	4646	5月29日: 638
2001	3313	5月28日: 419
2002	6041	5月21日: 903
2003	4463	5月28日: 834
2004	5169	5月25日: 736
2005	5953	6月5日: 706
2006	4240	5月30日: 512
2007	4410	5月26日: 480



かる~イ、気持ちで参加した観察であったが、今ではヒメホタルの生息環境回復のために、仲間とともに雑木林に侵食する竹の伐採に汗を流し、腐葉土に住むオカチョウジガイの観察など、どっぷりと千里山田緑地の自然とヒメボタルにはまって楽しんでいる。



ヒメボタルの幼虫の餌となる陸貝を探し、土中の生きものについて学ぶ西山田の小学生らと調査

すいた環境教育フェア 2007

～ もったいない気持ちをもう一度 ～

主催：すいた環境フェア実行委員会 2007年6月16日（土）メイシアター

実行委員会 古谷啓伸

毎年6月は全国環境月間で、すいた環境教育フェアは今年で12回目の開催になりました。1996年に1回目が開催され、その時に知り合った人々が中心になってすいた市民環境会議が結成され、私たちすいた市民環境会議にとって重要なフェアであります。吹田市のイベントとしても重要なイベントの一つです。

今年はサミットでも中心的な議題として取り上げられ、また地球温暖化対策の重要性が広く認識され、私たちNPOなどの継続的かつ地道な活動の輪が拡がりを見せたこともあり盛大に開催されました。今年は天気にも恵まれ快晴で人出は例年より幾分多かったようです。午後も見学者が続きました。

すいた市民環境会議は展示室で、温暖化で今世紀末までに気温が最大6.4℃まで上がる可能性があることを訴え、そうなる海面が5m上昇すると吹田南部が浸水し、縄文時代のように海岸線が垂水神社の森の南麓まで押し寄せることをパネルで展示しました。

屋外のいずみの園広場では、太陽熱を利用するソーラークッカー（下の写真）でジャガイモをゆがいて、見学者に食べてもらいました。この珍しい試みにみなさんの関心は高かったようです。



地球温暖化⇒海面上昇！

地球温暖化によって、海水面が縄文時代のように約5m上昇すると、吹田市内にも水没地域ができます。そのとき江坂は海の中。高いビルはその中の“島”となります。オフィスへの通勤は舟。“渡し”の復活か。

（吹田市立博物館 2006年8月発行「博物館だより」No27 記載の航空写真に加筆 秋元宏）

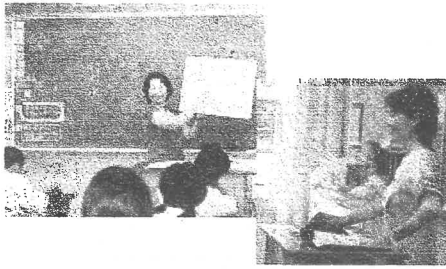


強い陽射しで
ジャガイモはホッカホカ

小ホールでは、環境学習・環境活動の事例発表会があり、「万博公園の春の渡り鳥」（吹田野鳥の会・平 軍二さん）、「紫金山こども自然教室」（自然観察会）、「アサヒビールグループの環境への取組み」など環境団体5件、小中学校4件、企業など4件の発表がありました。「燃料電池車の試乗会」「竹のひしゃく作りと打ち水体験」など、いずみの園広場、入口通路、ロビー、集会所、展示室、第1・第2練習室は展示や体験学習で賑わい、メイシアターは交流の輪が広がった一日でした。

～ こんなイベントもありました ～

*** ホームページ <http://www3.big.or.jp/~sskk/sskk.htm> にも掲載しています ***



片山中学でゲストティーチャ / 07-06-22 片山中学

吹田市立片山中学校で、1年総合学習「ボランティア入門」が行われ、ゲストティーチャとして、各クラスに8名のゲストが授業をしました。すいた市民環境会議は喜田副会長(写真左)が「地球温暖化防止のために何ができる」を、具志堅理事(写真右)が「自然に係わるボランティア活動」をお話しました。

H19年度 吹田市公益活動補助金・公開プレゼンテーション / 07-06-03 市役所・研修室

市役所で市内の9団体がプレゼンテーションしました。すいた市民環境会議は大木調査の報告書印刷費のうち、50万円を要望しました。(6/26に304,250円の決定通知をいただきました。)



吹田くわいネットワーク第三回会議 / 07-05-24 市民会館

スイタクワイに関心のある人たち約25人が集まりました。今夜は大阪園芸高校の谷本忠佳先生に『くわい』についての講義をしていただきました。クワイは「白くわい」と「黒くわい」に分けられていますが、「白くわい」はオモダカ科、「黒くわい」はカヤツリグサ科。スイタクワイは遺伝的にはオモダカと中国クワイと血すじ(関係)に近い、などなど、たくさん学習しました



ゲストティーチャ「市内のNPO」 / 07-04-28 07-05-12 大阪学院大学

大阪学院大学平成19年度総合科目Iの講義にゲストティーチャとして招かれすいた市民環境会議の活動を2日にわけて紹介しました。1回目は小田会長と喜田副会長が講義、大木の高さを測る実習もしました。2回目は喜田副会長と西川さん(生活環境委員会)が地球温暖化の説明と「個人でできること」を講義しました。最後に保温調理でつくったカレーを学生さんに味わってもらいました。



ピアノ池ヒメガマ刈り大作戦のご案内

- ・日 時：2007年7月7日（土）午前10時～12時
（雨天の場合は7月8日（日）、7月14日（土）へ順延）
- ・集 合：藤白公園ピアノ池（参加申込み不要、参加費無料）
- ・主 催：ピアノ池の環境よくする会（当会など6団体で構成）・北千里公民館
- ・問合先：吹田市緑化公園室（TEL 06-6834-5368）
- ・詳細は同封のちらし参照下さい

枚方宿のまちなみと鍵屋資料館の見学

まちなみ委員研修会 まちなみ委員以外も歓迎します

「NPO法人・枚方文化観光協会のボランティアガイドの案内で見学と交流

- ・日 時：2007年7月7日（土）10時～15時 雨天決行
- ・集 合：午前10時 京阪枚方駅構内 市民ふれあいセンター前
- ・費 用：昼食代（2100円） 入館料（200円） 交通費各自負担
- ・申込要：岡村（TEL/FAX 06-6871-5216）7月5日（木）まで先着20名

第31回「あろっく吹田」献策会 佐井寺コースのご案内

- ・日 時：2007年9月8日（土）小雨決行
- ・集 合：阪急千里山駅西改札前 9:30 解散：南千里駅 14:00
- ・参加費：会員200円 非会員300円
別途昼食代（1000円程度 佐井寺小学校前 ナポリで会食）
- ・申込先：大越（TEL 06-6382-7769 FAX 06-6382-8697）先着20名

寄付と夢シールのご提供など ありがとうございます

前年度会計 小田信子

平成18年度、多額の寄付とディオス北千里専門店会の夢シールのご提供ありがとうございました。合計304,632円です。寄付はイオンデイライト(株)と下記24名（敬称略）よりいただきました。

上田万吉 大江尚子 大沢浩子 太田英子 北野靖子 喜田久美子 後藤峰 小松孝子
櫻井あかね 佐藤和子 塩川哲雄 田端寛子 田中宏 千代延明憲 西川整子 西川怜子
林捷子 松浦一志 三崎敬二 松岡要三 松田遼 匿名3名

夢シールの換金額は56,000円でした。（上記合計に含んでいます）

今後も夢シールは続きますので、提供よろしくお願ひします。

その他にジャスコ南千里店イエローレシートキャンペーンで7500円相当の文具をいただきました。

<編集後記>

- ◎ 発足して10年、節目の総会が6月16日に開催された。事業計画案では「地球環境問題を見据え、地域で対応すべきこと、できる事を把握し計画を推進していきます」と。新しい理事・監事を迎えてのスタートである。
- ◎ 「吹田の郷」も今号は14頁。会の活動を出来るだけ正確にお伝えし、総会で承認された活動に一人でも多く参加していただけるための助けになればと願っています。
- ◎ ある会員から「日本語の美しさ」についてのテレビ報道の内容を紹介いただいた。編集担当へのお励ましと感謝し頑張っていきたい。

（会報委員 一同）